

社会福祉法人室蘭言泉学園広報

初めの一歩に

「元気」と「勇気」を

いずみ

写真：花ファクトリーあけぼの～みんなあーと大賞受賞



社会福祉法人室蘭言泉学園の基本理念



- 人間の尊厳を支える組織として一人ひとりの人格を尊重し、その成長を支援します。
- 常に利用者本位の立場に立って、そのニーズに応えヒューマンサービスの質の向上に最善を尽くします。
- 地域社会の福祉の担い手として福祉課題を積極的に掘り起こし、それに取り組みます。
- 社会福祉法人として、多機能で選択肢があり継続的なサービスを提供できる経営を目指します。

新しい年度

理事長 菅野 登一郎

今年度は年明け早々に能登半島地震が発生し、未だに多くの方が、困難の多い生活を強いられていることに心を痛めます。

法人でも備蓄品の提供、職員の派遣などを通し、復興の一翼を担うこととしております。

さて、3月「弥生」を迎えました。毎年のことではありますが、この時期は規則正しく草木が芽生え、勢いをつける季節です。ご多分に漏れず法人各事業所も新しい年度に向けて種々、計画・目標などを検討し、決めていく時期であります。心を合わせ利用者の幸せを念頭に入れた計画を立案していただきたいと願っております。

今年度は、創設者が障がいのある人たちの福祉をスタートさせてから75周年を迎える節目の年になります。

75年間の

変遷を経た現在、室蘭、苫小牧、伊達市の3市で30事業を展開する事業体として成長し、300有余名の役員が福祉を必要とする人たちのために力を尽くしております。



今年の事業方針には「誇れる事業」「誇れる職場」「誇れる法人」を目指そうと職員に呼びかけました。

創設者は「たおれても たおれても またおきあがる だるまたいしをかがみとして」と、後に続く私どもに励ましの言葉を残しています。改めて、今一度、法人事業75周年の今日、創設者の言葉を心にしっかり刻み、前に進みたいものです。



言泉学園 重大 ニュース

みんなあーと大賞受賞

花ファクトリーあけぼの 副主任 下山田 亜希

生活介護の活動として、みんなあーと（北海道知的障がい福祉協会主催のアート展）出展の為に作品作りを行っており、今年は2作品出展し、全道各地400点以上の応募作品の中から129点が入選となりましたが、なんと1点は「入選」、もう1点が出展2年目にして最高賞である「みんなあーと大賞」に選ばれました。

タイトルは「どうぶつの森」。

厚紙で骨組みを作り、その上からちぎった新聞紙にのりを付けて貼っていき、更に半紙も貼り付けた後、ちぎった色紙を貼り絵のように貼り色をつけていくという工程で行いました。

ゴリラ、パンダ、キリン、ソウ、木。それぞれ担当した動物に愛着を持ちながら作業を行っていたように見えました。

せっかくの機会なので、制作に関わった人達で飾られている自分達の作品を見に、札幌のかでる2・7会場まで行ってきました。

この度の大賞作品は、北海道の（案）「第1期ほっかいどう障がい福祉プラン」令和6年～令和11年度冊子表紙に採用される予定です。



新しい事業への挑戦

本部事務局 課長 網嶋 タ子

室蘭市子ども発達支援センターが民営化されることに伴い、公募が行われました。当法人も公募に申し込みをした結果、12月に移管先として決定しました。

室蘭市子ども発達支援センターで行っている事業は、児童発達支援事業、保育所等訪問事業、放課後等デイサービス事業、相談支援事業と大きく分けて4つになります。

相談支援事業以外は、今まで当法人で手掛けていない新しい事業の挑戦です。異動予定のスタッフは12月から研修に通っており、引継ぎや実際に子ども達と関わり、療育に参加しています。

毎日子ども達の色々な表情を見たり、初めて会った時と比べてできることが増えた話を聞いたり、実際にその様子を見るのが出来た時には、「自分のできることを一生懸命がんばろう」という思いになります。

そして、子ども達と「楽しい」「うれしい」「困った」など、色々な感情やその時間を共有できることがこの仕事の楽しさややりがいでもあり、その反面責任の重さを感じています。

法人が大切にしている「利用者本位の支援」「一人ひとりを大切にした支援」をどのように実践できるかが大きな課題ですが、今までの室蘭市子ども発達支援センターの実践を大切にしながら、いつか「室蘭言泉学園が引き継いでよかった」と思ってもらえるように、スタッフ全員で頑張っていきたいと思っています。



海外からの施設見学会を実施！！

本部事務局 主幹 篠原 拓

令和5年9月に国際電話がかかってきました。詐欺かと思ひ電話に出ると、かたことの日本語で「こちらは韓国のツアー会社です。韓国の社会福祉会が施設見学をしたいと言っています。」と話し、依頼文書とマーガレット社会福祉会の概要が送られてきたことで「これは詐欺ではないかな」と感じました。

令和5年11月3日、「アニューハセヨ～」と笑顔で会場入りするマーガレットの職員。車いすで来られたキム理事長。双方の理事長から通訳を介して挨拶を伝えられ、ひと足遅れのリアクション。互いの職員も緊張しておりましたが、施設見学の際にはGoogle翻訳を使ってのやり取りや英語での情報交換をしました。

日本と韓国の障がい者福祉サービスの違い、文化の違いなど様々な驚きと発見がありました。マーガレットの職員はとても熱心に見学され、多くの質問があり、予定よりも2時間近く見学会が伸びてしまったほどです。互いに良い刺激となりキム理事長からは「つぎはぜひ韓国に。空港までお迎えに向かいます。」とお話を頂き、皆で握手をして手を振りバスを見送りました。

その後も、マーガレット社会福祉会とはメールでのやり取りを重ね、今年も法人への来訪が決まっております。これからも両法人での様々な情報交換、職員研修や協力体制を築いていきたいと考えております。



e-sports 普及推進へ

本部事務局 高橋 美帆

子どもから大人まで年齢や性別に関わらず楽しむことができ、世界的な大会も開かれているe-sports。世界全体の競技人口は1億人に達し、日本でも競技人口390万人、プロ選手138名が世界で活躍しています。そのe-sportsの普及推進に向けて活動している北海道eスポーツ連絡協議会様と一般社団法人登別室蘭青年会議所様との3者で令和5年9月9日にe-sports普及推進について協定を締結いたしました。

今後、法人では児童養護施設わかすぎ学園の子ども達を中心にe-sportsに触れ合う機会を増やし、知識や技術の向上を目指します。e-sports事業は令和6年4月から本格的に始動する予定となっておりますので、来年度中にはHPや広報いずみを通して事業の取り組みや参加する子ども達の様子をお伝え出来ると思います。

多くの可能性を秘めた子ども達と、発展中のe-sports。きっと子ども達にとっても貴重な経験を得る機会になるのではないのでしょうか。どうぞ続報を楽しみにお待ちしております。



思い出がたくさん

児童養護施設わかすぎ学園 紙尾 梨芽

わかすぎ学園は令和5年7月1日で開園50周年を迎えました。体調不良者が多く、開園記念行事を開催できたのは11月18日でしたが豪華なコース料理を見て、笑顔が溢れる子ども達の様子が見られました。ハプニングもありましたが、思い出に残る会になりました。

その他にも、お誕生日会やクリスマス会、お正月。子ども達にとってビックイベントは続きました。クリスマス会では、欲しかったゲーム機とカセットをプレゼントに貰い、大喜び。お正月ではお年玉を貰い、たくさんお買い物に行きました。

子ども達の笑顔がたくさん溢れる支援を、これからも行っていききたいと思います。



皆で『たくさん』の楽しい時間

苫小牧養育センター鈴蘭 小石 優子

今年度の鈴蘭は、子ども達の希望をたくさん叶えられた年となりました。

お話会で希望を聞き、札幌でのお買い物や北湯沢での温泉旅行、エスコンフィールドでの野球観戦 etc... いろいろな所に行き、楽しい時間を過ごしました。

お姉さんの存在として、皆をまとめてくれていた児童が3月に退園し社会人になります。最後の年に初めての体験や長年一緒に過ごしてきた皆とたくさん楽しい思い出をつくることができ、職員一同大変嬉しく思います。



チームワーク

小規模グループケア桜 田村 共子

桜は小学3年生・4年生、中学1年生・2年生、高校1年生の男女5名の編成です。

年の差が大きく毎日楽しく賑やかな雰囲気の子供達。今年度は職員が大きく変わり、子ども達も緊張の中でのスタートでした。日々の不安や不満は計り知れなかったでしょう。

桜の子ども達は皆で協力するチームワークができています。行事もそれぞれが分担し、会を盛りあげることが上手です。今後色々なことに取り組み、楽しい思い出を作っていけたらと思います。



食も気持ちも新たなステージへ

地域小規模児童養護施設楓 主任 小杉 倫子

楓は下が小学6年生、上が高校3年生、しかも全員男子。ということは…ご飯=食べ盛りの男子5名がフル稼働。1度の食事でお米は4合が当たり前。パスタも約1kgの量があつという間にお腹の中へ。今でこそ、だいぶ量は減りましたが、食を大切にしてきた小規模だからこそ、皆、美味しい料理をペロリと平らげ、お腹も心も満たされているのかもしれない。

気付けばもう3月。今年は新型コロナウイルスが5類となり、夏は久しぶりに遠出をし、動物と触れ合ったり、プールに行ったり、ようやくコロナ前のようにアクティブに動くことができました。無事に高校の卒業式も終え、現在は退園に向け、スーツや家電・生活用品の準備、部屋の整理に励んでいます。



食事を通して

言泉学園・わかすぎ学園 調理室 副主任 成田 大

調理では、わかすぎ学園と言泉学園の子ども達に食事を提供しています。調理職員で知恵を出し合い、食から子ども達の笑顔を引き出せるよう努めています。味やバランスはもちろん、家庭的な雰囲気も大切にしています。



今年度は新型コロナウイルスが5類に移行し、コロナ禍の3年間ではできなかった行事が復活しました。中でもむろげんまつりはカレーライスや唐揚げ棒、焼きそばなど、多くの料理を用意し、他事業所の職員と連携して調理しました。

これからも食事を通して利用者支援に貢献したいと思っています。

「はまなすの子ども達と…」

苫小牧養育センターはまなす 吉田 雅美

令和5年5月から新型コロナウイルスの位置付けが5類に引き下げられ、一年間の行事の中でたくさんの経験や体験を積み重ねました。

遊園地でジェットコースターに乗ったこと、自転車に一人で乗れるようになったこと、キャンプに行ってカレーを作ったこと、お祭りに行って射的をしたこと、果物狩りに行ってブドウを取って食べたこと、ドキドキしてワクワクして緊張したこと、協力して何かを作り上げる喜びを様々な行事の中で、色々な学びを通して経験し体験したことを、これからも成長していく過程を見守り、子ども達の糧となるように今後も職員共々、子ども達のパワーに負けないように楽しく仲良く頑張っていきたいと思っています。

最後になりましたが地域の方々や学校の先生、多職種の方々にもいつも支えて頂き感謝しております。これからもよろしくお願いいたします。



皆で頑張った50kmあるかい？

障がい児入所施設室蘭言泉学園 小嶋 彩乃

去年は新型コロナウイルスの関係で中止になってしまいましたが、今年度は実施することが出来た「50kmあるかい?」。中高生の児童はもちろん、幼児・小学生の児童の頑張りが見られました！今年度は50kmではなく33kmでしたが、2日間皆で頑張りゴールすることが出来ました。

今年度は他にも開園記念行事や焼き芋会、クリスマス会がありました。

来年度も子ども達と一緒に楽しくたくさん思い出をつくりながら過ごしていきたいと思います。来年度もどうぞよろしくお願い致します。



おかげさまでベーカリーあけぼの5周年！

活動支援施設あけぼの 金澤 範子

皆様のご愛顧のおかげで活動支援施設あけぼの併設の店舗「ベーカリーあけぼの」も5周年を迎えることができました。昨年11月にはお客様に感謝の気持ちを込めて感謝セールを行い、その日限定のパンも数種類販売し、狭い店内はたくさんのお客様で大盛況でした！

通常販売のパンの製造作業を行いながら、いくつもある新作パンを繰り返し試作して試食して…利用者の皆さん、職員共に大変でしたが、大勢のお客様にご来店いただき喜んで購入されている様子を見ると、頑張った良かったなという想いが溢れてきました。

今後も日々美味しいパンを作っていきますので、よろしくお願い致します。



力を合わせて

花ファクトリーあけぼの 稲引 志乃

花ファクトリーあけぼのは「花卉栽培」と「草刈り」を中心に作業を行っていますが、年に数回全員で草刈りを行うことがあります。中でも望洋台公園は敷地が広く、お盆とお彼岸に合わせて作業を行わなければならないため、計画的に進めていきました。

草刈りの担当は飛び石などの危険があるため、真夏日でも肌を露出しないよう全身を防護し、機械を使っています。集草担当はレーキで草を集め、運搬担当はネットに草を入れトラックまで移動させます。夏は汗をかきながら、雨天時は全身が濡れても一生懸命行いました。大変ではありますが、一緒に頑張って作業を終えたときに、達成感を得ることが出来ました。来年度も春から秋にかけて忙しくなりますが、力を合わせて頑張っていきたいです。



久しぶりの親睦会

就労継続支援B型事業所湘南しいたけ 副主任 奥村 英道

令和5年度はコロナ禍で自粛していた、親睦会を2回行うことが出来ました。

10月に1回目の親睦会(バーベキュー大会)を行いました。当日は天候にも恵まれ、午前中で作業を終了し、昼食を兼ねて外で行いました。ジーンズ5kg、焼きそば、焼き鳥、白米、アイスクリームなどをたくさん準備し、食欲旺盛な皆さんのお腹も満たすことが出来ました。

2回目の親睦会は、年明けの1月に鍋パーティーを行いました。「キムチ鍋」「赤から鍋」「ごま豆乳鍋」「みそ鍋」の4種類を用意し、都度好きなものを取るピュッフェスタイルで提供し、皆さん楽しまれていました。

来年度も楽しい企画を考えていきます。



事業所活動

つづき

4年ぶりのつばさ会

共同生活援助事業所「げんせん」 綾井 貴江

新型コロナウイルスの影響で4年ぶりとなった、つばさ会の旅行がついに開催となり、利用者の皆さんの「行きたい」を叶えるべく、計5グループ総勢50名が、別日程で登別温泉や定山溪温泉、乙部町にあるバリアフリーホテルを訪れました。

車窓から見える普段とは違う景色に心を躍らせながら、それぞれの目的地で美味しい食事に舌鼓を打ち、普段の疲れを癒すべく温泉も堪能し、2日目では、あちこちでレクリエーションや写真撮影など、みなさんの素晴らしい笑顔が溢れていました。

また行きたい！楽しかったね！と思い出を分かち合い、次の旅行への期待を高められた、そんなつばさ会旅行となり、無事に終わることが出来ました。



みんなで頑張った思い出

日中活動センターげんせん 篠原 ゆか子

今年度は久しぶりの開催となった「むろげんまつり」で、日中活動センターでは、B型・生活介護の利用者の皆さんが、一丸となってポンポンダンスに取り組みました。

はじめはなかなか覚えられず、「難しい！」と心が折れそうになる方もいましたが、「みんなでやればできる！」と奮起し、短時間ではありますが毎日一緒に練習を積み重ね頑張りました。ドキドキで挑んだステージでは、渾身の「サチアレポンポンダンス」を楽しく披露することができ、多くの方から称賛の言葉を頂くことができました。

ステージに出られた方だけではなく、客席から見守り、応援してくれた「仲間」みんなで作り上げた、とても良い思い出となりました。



第9回むろげんまつりを開催

本部事務局 川島 優佳

社会に大きな影響を与え続けていた新型コロナウイルスが下火になり、5類感染症へ変更された今年度、実に4年ぶりとなる『むろげんまつり』の開催が叶いました。

開催中止が続いたため、お祭り未経験の職員も少なくありませんでしたが、よいお祭りにしようと、担当者全員で出し物やタイムテーブルなどの検討を重ねました。

ステージイベントは利用者の皆さんによるパフォーマンスの他、風船家 NORI さんのバルーンショーと夢飛行さんのマジックショーが披露され、好評を博しました。各事業所の屋台からは射的やポッチャなどのゲーム、食べ物が提供されました。本部事務局はスーパーボールすくいと受付、相談支援室と協力して焼き鳥の屋台を担当いたしました。

今回は記念すべき第10回となります。会場の狭さなどの課題はありますが、今までで一番のむろげんまつりにできるよう、本部事務局も力を尽くしてまいります。



今年の障がい者理解促進研修会

室蘭市障がい者総合相談支援室「げんせん」

室長 天野 量平

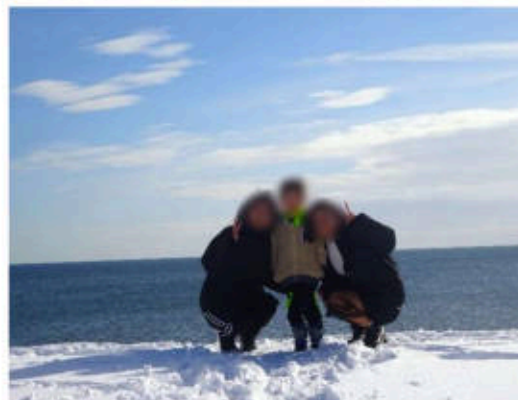
平成25年より受託中の「室蘭市障がい者理解促進事業」。その中心は一般市民向けの研修会開催。かれこれ10年、毎年の恒例行事ですが、毎年苦戦。今年のテーマはどうする？講師にどなたに？いつ頃実施？人が集まらない！年度当初から研修会終了まで、行政担当者さんと会う度の協議です。

何度やっても胃痛、頭痛等からは逃げられませんが、毎年毎年、法人内外の方々からの多大なご協力を得ています。おかげさまで今年も無事完了することが出来ました。

引き続きのお力添え、どうぞよろしく願い申し上げます。



湘南しいたけのご用命は  (0142-82-4065) 



日中活動センターのご用命は ☎ (0143-23-0520) ☎

令和6年度 社会福祉法人室蘭言泉学園カレンダー

ご厚志に感謝！

寄附者一覧

(令和5年3月～令和6年2月)

《団体》 (敬省略)

(株)AirDrive 三島、(株)Daska&Desiree、
 (株) Fabrichi、Protrise(株)代表 高木
 翔太、(株) Wads、(有)アクト警備オフィ
 ス、菓子工房モンパリ、(株)カプセルZ、
 観音山 仙海寺、生活協同組合コープさっ
 ぽろ、北海道コカ・コーラボトリング
 (株)、全国シャンメリー協同組合、太平、
 太陽の園デイ活動部養鶏科、チビッコ未
 来文庫、栃木、苫小牧マーガレット幼稚
 園、日本鏡餅組合、(一財)日本児童養護
 施設財団、(有)信田印刷、(有)花のなが
 はら、広尾町役場サンタランド係、(株)
 フジテク工業 藤原久志、(株)北洋銀行、
 母恋マンション管理組合、母恋南町町会、
 (一社)北海道電気管理技術者協会 成田
 電気管理事務所、ほっともっと、(公財)
 毎日新聞東京社会事業団、(株)マルハン、
 (株)室蘭製麺、室蘭友の会 大久保澄子、
 室蘭八幡宮、室蘭東ライオンズクラブ、
 もりのとびら 代表 森 優、(株)山本商店

《個人》 (敬省略)

阿部和子、石川英仁、大下末子、大野憲義、
 岡山政晴、鴨井教子、佐藤友美、佐藤弘明、
 佐藤まさゆき、佐藤泰子、芝垣晶子、竹内
 登貴子、成田則久、畠山修、福田絵、藤井
 博子、堀内道子、間野壽郎、門司一徹、
 八木橋紀子、安井裕之、山内民江、山縣
 次朗、山下真優美

○辞令交付式
○交通安全表彰



○春季行楽行事
○定時評議員会



○夏季行楽行事
○日活まつり(日活)



○ハロウィーン行事
○各種中間報告



○クリスマス会
○忘年・もちつき会



○節分行事
○冬季行楽行事



○法人事業貢献表彰
○定時理事会



○サマーキャンプ
○50kmあるくかい?



○母恋神社祭典参加
○むろげんまつり



○秋季行楽行事
○永年勤続表彰式



○成人式
○新年会



○退園式
○各種報告



広報いずみ

2024年3月25日発行

発行人 社会福祉法人 室蘭言泉学園
 住 所 〒051-0004
 室蘭市母恋北町1丁目4番2号
 電話・FAX 0143-50-6720
 HP <http://www5.plala.or.jp/gensen>

新型コロナウイルスの分類変更に伴い日本全国で多くのイベントが再開された今年度。法人でも、感染症対策を行った形で『むろげんまつり』の開催に至りました。児童、利用者の皆様からは「楽しかった。」の声を頂いております。行事の盛況ぶりは事業所活動紹介からお伝えできればと思います。

今年度、法人から7名の児童が卒園します。春から始まる新生活にはきつと期待も不安もあるでしょう。もしいつか困難にぶつかったとき、法人での経験がそれを乗り越えるための力になることを願っています。(か)

編集後記